

現存する日本最古の鋼鈑桁道路橋 明治橋

概要

大分県臼杵市（旧大野郡野津町）野津川にかかる明治橋は、明治35年に完成した、今年で103年を経た橋梁です。本橋は「トラフ状底鋼板の上にコンクリートが載せられた、いわゆる合成床版を有する橋」、「原位置に現存し供用中の道路橋」という2つの日本最古の特徴を持っており、日本の鋼道路橋における歴史上重要な土木構造物です。平成17年6月現在、A級土木遺産および大分県指定有形文化財として保存されています。本橋を永続的に維持・保存していくため、様々な方面から検討し、周辺環境を含めた総合的な補修計画の策定を目指しています。主な検討項目としては、以下の3つがあげられます。

- ① 歴史的価値の評価
- ② 健全性(耐久性)の照査
- ③ 補修対策および保存活動



全景



調査用脚組み



構造調査

特徴

健全性照査の観点から、構造・損傷度調査および静的載荷試験などによって現状のデータを得ます。それと歴史的橋梁の保存には不可欠な歴史調査から解明された架設当時の様子と合わせ、本体の形状を極力変えず、強度を維持するための方法を検討しています。



床版張り出し部



対傾構座屈状況

展望

構造的調査と歴史的調査の二面から本橋についてのアプローチを行い、総合的な補修・保存方法の検討を行います。平成16年3月に、構造損傷度調査およびトラック車両を用いた静的載荷試験が行われました。また、平成16年12月には、旧野津町民を対象としたアンケートを行い、歴史的背景の調査や住民の明治橋に対する意識調査も行いました。今後は歴史的橋梁を保存、保全をしていく際の手法や配慮すべき点を提案していきます。



橋脚に刻まれた切れ込み



明治橋位置図